

区分：近景域	地点番号：②⑩	地点名：山田東第2遊園
--------	---------	-------------

景観の変化の程度：

現状は、住宅地の景観の中に樹木や空が広がる開放的な景観となっている。既存の建物越しに共同住宅の一部がわずかに視認されるが、現状の景観にはほとんど影響を及ぼしていない。



図 12.16-14 景観の変化の程度（②⑩山田東第2遊園）

区分：近景域	地点番号：②①	地点名：山田上街角ふれあい公園
--------	---------	-----------------

景観の変化の程度：

現状は、広場越しに平屋の建物や戸建て住宅地、その奥に空が広がる景観となっている。背後に共同住宅の上部が視認されるようになり、スカイラインの一部が変化する。事業計画地南側の住宅地から見上げた際、丘陵地の高い位置に共同住宅が位置するため視認されやすくなることから、軒裏に木調を意識した色彩を施し、圧迫感を和らげるとともに温かみの感じられる外観となるよう配慮がなされている。さらに、アースカラーの色彩計画や縦横ラインによるボリュームの分節により、周辺環境に馴染む穏やかな外観構成としている。

現況



将来



図 12.16-15 景観の変化の程度（②①山田上街角ふれあい公園）

区分：近景域	地点番号：②	地点名：太陽の広場
--------	--------	-----------

景観の変化の程度：

現状は、広い芝生広場と樹木越しに、旧ホテル阪急エキスポパーク等の既存建物や空が見える開放的な景観となっている。事業の実施に伴い、樹木の背景にアリーナ棟やオフィス棟の上部が視認されるようになり、背景のスカイラインが変化する。広大な芝生と立ち木による自然景観が主軸であるため緑豊かな環境は良好に維持されるとともに、背景に重なる計画建物も高さや意匠・色彩に配慮していることから、公園空間の落ち着きを害することなく、新しい賑わいを感じさせる景観へと調和的に変化するものと予測する。

現況



将来



図 12.16-16 景観の変化の程度（②太陽の広場）

区分：中景域	地点番号：⑫	地点名：千里丘北
--------	--------	----------

景観の変化の程度：

現状は、中景の既存建物や観覧車の奥に遠景の山並みや空が広がる景観となっている。事業の実施に伴い、既存建物の背後にホテル棟及びアリーナ棟の一部が出現し、スカイラインの一部が変化する。しかしながら、中景域からの眺望であるため視認される計画建物の比率は小さく、既存の山並みや空の広がりといった景観の骨格は維持される。また、計画建物は色彩や高さのバランスに配慮していることから、周囲のまちなみや自然景観に調和した変化にとどまり、著しい違和感を与えることはないものと予測する。



図 12.16-17 景観の変化の程度（⑫千里丘北）

区分：中景域	地点番号：⑬	地点名：万博記念公園展望タワー
--------	--------	-----------------

景観の変化の程度：

現状は、眼下に豊かな樹林地が広がり、その奥に山並みが視認できる自然豊かな眺望となっている。事業の実施により、樹林地の背後に計画建物が出現し、背景の稜線の一部が遮られることとなる。この稜線の切断や建物の出現に対しては、建物の高さを抑えた配置計画やボリュームの分節化を図るとともに、周辺環境に馴染む色彩計画を採用することで、視覚的な圧迫感や違和感を低減する配慮を行っている。高い視点からの見下ろし景観となるため、広大な樹林地が視界の大半を占めており、自然主体の景観要素が良好に保持されている。

現況



将来



図 12.16-18 景観の変化の程度（⑬万博記念公園展望タワー）

区分：中景域	地点番号：⑭	地点名：千里中央公園
--------	--------	------------

景観の変化の程度：

現状は、公園のフェンス越しに遠方の街並みや山並み、広大な空が見渡せる開放的な眺望景観となっている。事業計画地から距離がある眺望であるため、将来においても計画建物の出現による背景スカイラインへの影響は極めて限定的である。遠景の一部に計画建物のシルエットがわずかに視認される程度であり、現況の開放感や眺望の広がりが増えることはほとんどなく、景観への影響はほとんどないものと予測する。

現況



将来



図 12.16-19 景観の変化の程度（⑭千里中央公園）

区分：中景域	地点番号：㊸	地点名：お祭り広場
--------	--------	-----------

景観の変化の程度：

現状は、太陽の塔を中心として周囲の樹林地や背景の空が一体となったシンボリックな景観が形成されている。事業の実施により、太陽の塔の背景（脇部）にホテル、オフィス棟等の計画建物の上部がわずかに現れ、スカイラインの一部が変化する。しかし、太陽の塔の圧倒的な存在感や手前の広大な広場空間・樹林の景観構成はしっかりと維持される。露出する計画建物のボリュームも抑制されており、太陽の塔を主役とする象徴的な景観に影響を与えることはほとんどなく、著しい違和感が生じないものと予測する。

現況



将来



図 12.16-20 景観の変化の程度（㊸お祭り広場）

区分：中景域	地点番号：③②	地点名：大阪日本民芸館
--------	---------	-------------

景観の変化の程度：

現状は、太陽の塔や観覧車、緑豊かな樹林地、駐車場などが組み合わせあった景観となっている。太陽の塔の背景にホテル、オフィス棟等の計画建物が視認されるようになり、スカイラインに変化が生じる。しかしながら、中景からの視点であり、既存の太陽の塔や観覧車といったランドマークの視認性は維持される。また、計画建物は落ち着いたデザインと色彩が施されているため、既存の施設や緑地環境と調和し、全体として違和感のない景観変化にとどまるものと予測する。



図 12.16-21 景観の変化の程度（③②大阪日本民芸館）

区分：中景域	地点番号：③④	地点名：つつじヶ丘
--------	---------	-----------

景観の変化の程度：

現状は、手前に豊かな日本庭園・自然文化園の緑地が広がり、中央奥に太陽の塔や観覧車が望める緑豊かな眺望景観となっている。事業の実施に伴い、遠方の樹林のラインの背景に計画建物の屋根ラインが薄く出現し、スカイラインの一部が変化する。ただし、視界の大部分を占める手前の広大な樹林帯や芝生空間が景観の主軸を維持しているため、計画建物の露出度は低く、緑豊かな自然環境の印象を損なうことはないため、景観に及ぼす変化は軽微であると予測する。

現況



将来



図 12.16-22 景観の変化の程度（③④つつじヶ丘）

区分：－	地点番号：⑮	地点名：大阪モノレール
------	--------	-------------

景観の変化の程度：

現状は車窓から樹林地や開けた景色が見られるが、移動に伴い大型建築物群が順次視界に入ることにより、背景の樹林地の一部が遮られ、緑の視認面積が減少する。このような緑地景観の変化に対し、建物の高低差やスカイラインの連続性に配慮した配置計画を行うとともに、圧迫感を与えない外観意匠・色彩計画を採用することで、車窓からの景観の抜け感を可能な限り確保し、都市的賑わいと自然景観の双方に配慮した設計としている。

現況



将来



図 12.16-23 (1) 景観の変化の程度 (⑮-1 大阪モノレール)



図 12.16-23 (2) 景観の変化の程度 (⑮-2 大阪モノレール)



図 12.16-23 (3) 景観の変化の程度 (⑮-3 大阪モノレール)



図 12.16-23 (4) 景観の変化の程度 (⑮-4 大阪モノレール)



図 12.16-23 (5) 景観の変化の程度 (⑮-5 大阪モノレール)

区分：一	地点番号：⑩	地点名：外周道路
景観の変化の程度： 現状は、道路の先に空が広く見え、既存の樹林や街灯が点在する比較的穏やかな都市景観が続いている。移動に伴い、道路の背景や正面に共同住宅が段階的に出現し、空だった部分や樹林地が建築物群に置き換わっていく景観に変わる。近接地点では、建物の高さや広がりが強調されるため、自然的景観から高密度な居住街区へと印象が大きく変化する。巨大なひとつの塊に見えないよう、外壁に縦横のラインを配置して分節することにより、走行中の視線に対して、建物がリズム感のある風景として認識されるよう工夫されている。		



図 12.16-24 (1) 景観の変化の程度 (⑩-1 外周道路)



図 12.16-24 (2) 景観の変化の程度 (⑩-2 外周道路)



図 12.16-24 (3) 景観の変化の程度 (⑩-3 外周道路)



図 12.16-24 (4) 景観の変化の程度 (⑬-4 外周道路)